

J - クレジット制度管理者 御中

実績確認概要書

平成31年1月10日

審査機関名 ロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッド

1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	A 重油ボイラから国産間伐材を利用した木質バイオマスボイラへの更新プロジェクト
承認番号	KC0354
排出削減事業者名	株式会社アマタケ□
排出削減共同実施事業者名	株式会社 FT カーボン (その他関連事業者名：なし)
事業実施場所	株式会社アマタケ 細野農場 (住所：岩手県大船渡市立根町字細野17-3)
事業の概要	A 重油ボイラ3台を木質バイオマスボイラ3台へ更新する。バイオマスへのエネルギー転換によって、CO2排出量を削減する。
排出削減量の計画	2010年度： 445 tCO2 2011~12年度： 735 tCO2 2013~17年度： 750 tCO2 2018年度： 232 tCO2 (事業実施期間合計 6,632 tCO2)
クレジット認証期間	開始日 2010年8月22日 終了予定日 2018年8月22日
排出削減方法論	方法論番号001: ボイラーの更新

2. 本実績確認の対象期間

2016年11月1日～2018年8月22日（第7回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	1,165tCO ₂ (2016年11月1日～2018年8月22日)
-------	--

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果生じていること	排出削減量が、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じている事を、以下の通り確認した。 1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないので該当しない。 2) 対象期間中の設備稼働の確認 導入した木質バイオマスボイラ設備は実績確認の期間中継続的に稼働していることを、本実績報告対象期間における木製ペレットの購買実績等により確認した。□□
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って実施され、算定されていることを確認した。 1) モニタリング方法の確認 関係者へのヒアリングにより、承認排出削減事業計画通り、木質バイオマス使用量に関するモニタリングが実施されていることを確認した。また、木質バイオマスの単位発熱量は、Jクレジット制度方法論EN-R-001のペレット発熱量（湿潤ベース）の発熱量を使用していることを確認した。 2) 活動量の正確性 木製ペレットの納品書の確認により、承認排出削減事業計画通り、ペレット使用量の記録・保存が適切になされており、正確に集計されていることを確認した。

	<p>3) 単位発熱量、排出係数等の確認 実績報告書の記載どおり、ペレット単位発熱量はJクレジット制度方法論EN-R-001のペレット発熱量（湿潤ベース）の発熱量を使用していることを確認した。また、A 重油の排出係数は J-クレジット制度・モニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver3.2、その他は承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 事業実施後排出量、ベースライン排出量、リーケージ排出量、排出削減量の算定結果を根拠資料と突合、方法論の定めた計算式との照合、計算過程の確認、再計算等を実施した結果、排出削減量の算定結果が正確であることを確認した。</p>
<p>算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと</p>	<p>本実績確認の対象期間は、2016年11月1日から 2018年8月22日までであり、排出削減量を算定した期間が 2018年8月22日を超えないことを確認した。</p>

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

今回の検証において承認排出削減事業計画からの重要な変更点に該当する事象はなかった。

6. 特記事項

排出削減量に相当する再生可能エネルギー利用量について、熱量換算で 16,949 GJであることを確認した。

また、今回の実績を年間換算すると635tCO₂/年となり、前回の年間実績換算値793tCO₂/年よりも-20%である。変動理由として以下を確認した。

- ① 過去に予想以上に燃費が悪く経費増となった為、鶏舎の床温度についてボイラー温度および詳細な運転方法の改善を行い、燃料の木質ペレット使用量の低減に繋がった。
- ② 種鶏の雛の暖房用で夏は使用量が極めて少なく、通常は11～4月の冬季の使用のみである。また、年度毎に種鶏雛の導入ローテーションがあるので差異が発生する。

以上